

平成28年度 小松市立波佐谷小学校 学校評価報告

小松市立 波佐谷小 学校

	自己評価					学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	今後の方向性 (改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況(主担当)	達成状況		
① 組織的な学校運営	<p>〈目標〉組織的な学校運営組織の活性化を進め、教職員の組織への参画意欲を高める。</p>	<p>【成果指標】 学校運営が、組織的・創造的・効率的に行われ、教職員の成就感やモチベーションが高まっている。</p>	<p>学校運営への参画意識に肯定的な回答が A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満</p>	<p>昨年度の反省を踏まえ、運営委員会、分掌部会の役割や、職員会議につながる流れを見直した。2割弱の組織としてのさらなる運営の改善を求める声があるが、昨年に比して効率化が進み、目的意識や達成感が高まったとの実感が職員の中にある。</p>	B	<p>・学校評価が始まり十年余り経過したが、「推進・改善」を継続し続けることはそもそも可能なのか。学校評価のシステムにより、子供たちも先生方もゆとりがなくなることを懸念する。</p>	<p>会議のタイムマネジメント見直しやスリム化により、部会から職員会議へのスケジュールが改善され、各部が活性化した。職員の仕事への関与を高める管理職からの働き掛けも含め、職員の参画意識を一層高める一方、ワークライフバランスに配慮していく。学校評価のシステムは、市の指導の下、次年度改善する予定である。</p>
	<p>〈目標〉いじめ・不登校早期発見・対応</p>	<p>【成果指標】 積極的な生徒指導としての研修が年間3回以上実施され、早期発見・対応ができるようになっている。</p>	<p>研修の有効性に対する肯定的な回答が A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満</p>	<p>いじめや特別支援に関する研修を実施した。月に1度は児童理解の会を実施し、気になる児童について情報交換を行い、早期発見に努めた。研修に対しては、全職員が肯定的な回答をしている。</p>	A	<p>・学年を超え、学校全体で児童理解に努めており良いと思う。ひだまり週間も継続して欲しい。 ・いじめ等の実態は、実際どのようなものであるか。また、把握の仕方はどうであるか。</p>	<p>いじめ等の早期発見・対応力の向上を図る研修を今後も定期的に実施する。日々の看取りの他、ひだまり週間における面談を活用し、アンケート等では現れない状況などに対応していく。また、統合に向けて、情報共有や指導履歴の整備についても準備していく。</p>
	<p>〈目標〉指導力の向上</p>	<p>【成果指標】 学校研究と学力向上プランとの連携を深め、国語科を中心として研究と実践を重ねていく。(学びの12か条+1.2.3.4.7)</p>	<p>国語の授業に対する肯定的な回答が A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満</p>	<p>教職員アンケートでは、国語の授業改善に対する肯定的な回答が100% (A：38% B：62%)となり、前期より肯定的な割合が高くなった。研究授業の視点に具体的な視点を設け、国語科で学習する用語をカードにして授業で活用したり教室に常時掲示したりした。</p>	A		<p>国語で育てたい力を系統化し、国語科で学習する用語をカードにして活用してきた。今後育てたい力の系統性をより明確にし、様々な学年を見わたしながら指導に生かすことができるようにしたい。指導事項や既習の学習を系統的に積み重ねていくことで、学ぶ力を育てていきたい。</p>
② 確かな学力の育成	<p>〈目標〉学力の定着</p>	<p>【努力指標】 帯タイムの計画的運用により基礎基本の学力定着と活用力の育成を図る。(学びの12か条+10.11条)</p>	<p>対象としたテストにおいて目標を達成した割合が A：9割以上 B：8割以上 C：7割以上 D：7割未満</p>	<p>ステップ学習の時間に活用問題の取組や解説・直しの時間を確保することができた。また、PISA型読解力の問題集を全学年共通して取り組むこともできた。学習ランドでは、問題の分析や児童の課題や積みを把握しながら指導でき、有効であった。期末テストの平均は、算数90.5点漢字92.5点で目標を達成することができた。</p>	A		<p>ステップ学習の時間を活用し、基礎基本の定着と、活用問題の取組の充実を図る。また、学習ランドを水曜日のステップタイムプラスの時間以外で週に1度は出来るような計画をし、基礎基本の定着と活用力の育成のバランスをよりよくなるようにしていく。</p>
	<p>〈目標〉授業の改善</p>	<p>【満足度指標】 国語科を中心とした授業研究により、必要な情報を主体的に読む力を育てる。(学びの12か条+5)</p>	<p>授業や活動の工夫により、児童の読む力が向上したと感じる割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>児童アンケートでは、肯定的な回答が93% (授業が分かる：63% 大体分かる：30%)と前期に比べ肯定的な回答の割合が高くなった。課題づくりを授業研究の視点に設定し、課題や単元計画を児童と共有することを大切にしたい。</p>	A	<p>・国語では、教科書以外の教材も使っているように、幅広い知識・力が得られると思う。 ・自学を頑張るよう、先生方が色々と工夫している。児童にも自学が定着し、やる気もある。</p>	<p>課題や単元計画を提示して児童と共有することにより、児童が見出しをもって授業に臨み、活動に取り組む姿が見られるようになった。教材で学んだことを言語活動に生かすことができ、児童の達成感や主体的な学びの姿勢にもつながった。今後継続して今年度成果が見られた手立てを積み重ねていくことで児童が主体的に学ぶ姿勢を育てていきたい。</p>
	<p>〈目標〉家庭学習の充実</p>	<p>【成果指標】 家庭学習の環境づくりを保護者に呼びかけ、家庭と学校が連携して児童の家庭学習習慣の定着に努める。(学びの12か条+8.9.12)</p>	<p>毎日1ページ以上の自学に取り組んでいる児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>家庭学習強化週間を設け、小中連携としても取り組むことができた。保護者の意識も少しずつ向上していった。 自学への取組も93%の児童が毎日1ページ取り組んでいると肯定的な解答であった。</p>	A		<p>基礎基本の定着と活用力の育成、自主的な学習の3つの視点で小中連携して、共通して取り組む。また、児童と比べ、保護者の家庭学習に対する意識が低いので、家庭学習強化週間の取組や家庭学習に関するお知らせを通して、保護者の意識向上と、学力向上の取組としての理解や協力を図る。</p>
③ 豊かな人間性の育成	<p>〈目標〉キャリア教育の推進</p>	<p>【努力指標】 道徳やさまざまな教科を通して、コミュニケーション力や課題対応能力(学ぶ力)などの力を育み、児童のキャリア教育を推進する。(学びの12か条+6)</p>	<p>生き方や社会とのつながりを考えさせる授業を実施 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>道徳においては、生き方について触れたり考えたりする授業を行ってきた。他教科では田植え、稲刈り、ヤマメの放流、消防見学、工場見学、講師を招いての体験教室(波フェス)、合宿などを通して自ら課題解決していく学び方やふるさととのよさについて考える機会を設けた。</p>	A	<p>・たて割り活動が多く、高学年が自分で考え動く機会となつて良い。 ・図書ボランティアや図書委員が活発に活動していると思う。 ・将来の夢を語るスピーチの授業を参観し、キャリア教育など豊かな人間性の育成とも関わりが深いと感じた。教科(国語)の力を積み上げながら、今後教科の枠を超えた学習を行って欲しい。</p>	<p>道徳や特別活動などを中心としつつ、各教科において生き方や社会とのつながりを考えさせる機会や活動の充実を図る。</p>
	<p>〈目標〉読書力の向上</p>	<p>【満足度指標】 学校や家庭での読書の推進や、個に対応した選書により、個人の読書力を高める。(学びの12か条+2)</p>	<p>読書ががんばれたと感じる児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>司書による図書館祭りを行った。図書委員会による企画「図書カレンダー」や出張図書館、読み聞かせを行ったりし、図書を手に入る機会を増やせた。2学期をふり振り返り、がんばれたと感じる児童は89%だった。</p>	B		<p>アンケートで、家庭での読書がまだまだのところがあるので、家族読書の日を生かして、お家の人と一緒に読むといい本を薦めたり、子どもがお家の人に読んであげたい本を選ぶよう声掛けをしたりする。また、月別に見ると、不読者もいるので、委員会の取り組みや子に応じた読書指導、担任による声掛け等引き続き行っていく。</p>
④ 体の健康や成長	<p>〈目標〉健康な体づくり</p>	<p>【努力指標】 外遊びを中心とした遊びを通して、健康な体作りへの意識を高めるとともに、活発に活動する中で、児童の体力向上をめざす。</p>	<p>遊びの紹介や場の設定を A：毎月できた B：学期に3回できた C：学期に2回できた D：学期に2回未満</p>	<p>9月は実施できなかったが、10月はランランウィーク、11月は背中ピントレーニングとキッズふれあい、12月は体育委員による縦割り遊びの取組を行った。また、サッカーゴールを設置し、ボールを玄関に置いた。</p>	B	<p>・ランランウィークはあってもマラソン大会が無いのは残念。自分にとれくらしい力があるのかを知ることも大切だと思う。</p>	<p>1月はなわとび、2月は雪遊びのためにそれを準備し、運動場を山とつきり、外で遊ぶようにする。また、きつずふれあいも計画し体力作りの場を設定する。</p>
	<p>〈目標〉家庭・地域との連携</p>	<p>【満足度指標】 学校・家庭・地域が三位一体となって社会性を身につけた児童の育成を図る。(学びの12か条+12)</p>	<p>「あいさつ小学校」を目指し、学校・家庭・地域において日々の挨拶がしっかりとできる。 A：学校・家庭・地域で95%以上 B：学校・家庭・地域で85%以上 C：学校・家庭・地域で75%以上 D：学校・家庭・地域で75%未満</p>	<p>企画委員会による朝の挨拶運動を行った。肯定的な評価の割合は、学校81%、児童92%とやや減、保護者96%とやや増であった。</p>	B	<p>・学校だけでなく、家庭でも挨拶の大切さを日々伝えていく必要がある。 ・子ども同士での「おはよう」の声かけもあれば良いと思う。(上級生から声をかけ、下級生が自然と学ぶようになると良いと思う。)</p>	<p>肯定的な回答のうち児童の約8割はA評価であるのに対して、学校や保護者の約半数はB評価が多く、意識のずれがある。目指す姿は大きな声の挨拶だけでなく、共有し、継続的に意識付けを行っていく。</p>
⑤ 家庭・地域との連携	<p>〈目標〉開かれた学校</p>	<p>【満足度指標】 学校教育活動を家庭や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努める。(学びの12か条+12)</p>	<p>「開かれた」項目で肯定的な回答の割合が A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満</p>	<p>肯定的な評価は学校100%、保護者98%と1学期より大きく改善され、学校と保護者とのずれも解消されている。</p>	A		<p>学校便りやホームページ、メール等を活用し、効果的な情報発信に努めた。また、定例の個人懇談会の他、個別に丁寧な保護者対応を行った。波小フェスティバルでの体験教室や会食などにより、保護者や地域との密接な交流の場を創出した。統合を控えている中、更に充実した絆づくりを進めていく。</p>